

意見対象項目(該当箇所)		意見
該当ページ	該当する記載	
2	<p>感染症の拡大防止に努めながら「新たな日常」を構築する上で必要となるテレワーク・遠隔教育・遠隔医療などの利用のためにブロードバンドは不可欠であり、また、地方自治体における行政サービス維持や地域における産業 利用等のため、ブロードバンドの需要が高まっている。</p>	<p>総務省の考え方に基本的に賛成であるが、需要が高まるからブロードバンドを整備するのではなく、ブロードバンドをビルト・インして、アプリケーションの展開や促進を考えるべきである。さらに、ブロードバンドは、エンド・ツー・エンドで考えるべきであり、光ファイバーのインフラから宅内のデバイスに繋げるところまで、実際に繋がるのか、動くのか、総合的に考えるべきである。特にこのコロナ禍で、集合住宅の構内配線等が問題となっており、政府が率先して各事情に合わせたブロードバンドプランを作るべきである。今後ブロードバンドが遠隔医療や行政サービスに使われていくことから、セキュリティへの配慮も必要で、人々が不安を抱くことなく、また手間のかかる手段を生じさせることなく、サービスを楽しむことができるようにすべきである。</p>
2	<p>このような中、ブロードバンドの利用について地理的格差が発生すれば、「新たな日常」や Society5.0 時代に必要となるサービスを利用できない人が生まれることになり、社会的に望ましくない。</p>	<p>インターネットへの接続は、今や国民生活になくしてはならないサービスの一つと考えるべきである。例えて言えば、電気や水道のような物である。よって、地理的格差は基本的にあってはならない。また経済的格差のある世帯に対しては、他のインフラのように援助も必要である。インターネットを通じて今や、教育・医療・行政サービスが提供される中で、更なる格差をここで作るべきではない。またそのためにも、IT リテラシー教育を推進すべきである。</p> <p>特に、Society5.0 時代へは、国民全体の理解を得ることが必要で、そのためには地方自治体の職員、現場の教育部門の関係者を巻き込んで今後の日本のあるべき姿を、専門用語を使いすぎることなく、分かり易く説明していく努力も必要と考える。エンド・ツー・エンドのブロードバンドの必要性だけでなく、そのインフラをフルに活用できない日本の IT の遅れをもっと周知させ、危機感を持ってもらうことが大前提だと考える。</p>

2	<p>このため、ブロードバンドを誰もが使えるような環境を整えるべきである。具体的には、現在のブロードバンド整備状況を前提として、地理的格差が発生しないようなブロードバンド環境の維持を目指すことが適当。</p>	<p>毎年のように災害に見舞われる我が国では、ブロードバンドのインフラストラクチャーは、強固で且、冗長性も必要であり、そこは、都市部も地方も同じである。災害時のライフライン維持という前提でも地理的格差は生じてはならない。</p> <p>ブロードバンドは、少ない例外を除き、光ファイバーを主軸とするべきで、さらには、地域5G普及の基ともなるべきものである。よって、敷設については、経済合理性よりも国がどうあるべきかを考えることが必要であり、安易な無線化は取られるべきではない。</p> <p>ブロードバンドの敷設をする時に、地域の事業者の存在を無視してはならず、地域が共存できる環境を作るべきである。</p>
2	<p>以上のブロードバンドの位置付けに関して、国民的コンセンサスを得るためにも、広く意見募集を行い、当該意見 募集の結果を踏まえつつ、国民負担が過大とならないような制度の検討を第Ⅱ期において行うこととする</p>	<p>今後の議論の中でブロードバンドの上で、広く社会に役に立つソフトウェアやサービスを展開しているCSAJの会員企業にも発言や意見陳述の場を与えて欲しい。今やソフトウェアは、エブリウェアと呼ばれるぐらい人々の生活に溶け込んできた。そんな中でブロードバンドを通じて提供されるものが多くを占めて来た手前、インフラ事業者のみならず、広くソフトウェア事業者も入れて国民的な議論としていただきたい。</p>